

ナースキャップ廃止 に思う



このたびナースキャップが廃止になりました。このために看護師さんたちの美容代がかさむようになったと聞いております。そういえば本院の看護師さんたち、最近きれいになりました。おめでとうございます。

わたしはかねてからナースキャップ廃止の本当の理由はなにか、と考えてきました。ナースキャップが不潔で感染症が多い、ナースキャップが邪魔で事故のもとになる。ほとんどの病院のホームページでもそういっています。ほんとうですか。わたしの知るところ、そういう理由には科学的根拠がありません。実際にナースキャップが原因で院内感染が多発したという報告は知りません。ナースキャップが原因で医療事故が多発したという報告も聞きま

せん。もしそうだとしたらこの100年間、ナースキャップのために患者さんに大変な迷惑をかけてきたことになります。ほんとうにそうなんですか。

そんな疑問を抱いているときに、ある人から「カナダ文明博物館」のホームページに英文で、「ナースキャップ100年の歴史—その終焉」という文書があることを教えてもらいました。そこにはナースキャップ廃止は、ナースだけがキャップをかぶることで医師やその他の職種と差別されたくない、と思いついたことが主な理由とありました。看護職の技術および専門性の向上で、他の職種と対等な関係で患者に接したいという意識の向上の表れです。

わが国では平成14年に保健師助産師看護師法が改正されて看護婦・士から看護師へ名称が変わりました。看護師の「師」は医師、薬剤師、放射線技師、検査技師など他の技術職につく「師」と同じになりました。ナースキャップ廃止の真の意味は看護婦・士から看護師への名称変更と連動しているのです。

そんなわけですから、看護師のみなさん、婦・士から師になったことの意義とおなじようにナースキャップを廃止したことの真の意義を意識して下さい。そしてさらに専門職としての技術の向上をはかりつつ、患者さんへの療養上の世話に励んでいただきたいと思います。みなさんきれいになりましたよ。
(院長：吉武 克宏)

「医療安全管理室より ～その22～」

【院内看護師研修について】

当院看護部では、「患者さん中心の安全安楽な看護を提供できる看護職員を育成する」ことを目的として院内看護師研修を行っています。今年度も、看護師の経験年数に応じた研修や専門職としての資質向上を目的とした研修を、看護教育委員会が計画しました。専任リスクマネージャーとして、『事故防止』の視点から研修の企画・運営に携わっています。

川村治子氏(杏林大)が行った厚生科学研究「医療のリスクマネジメントシステム構築に関する研究」の結果から、看護師が関係したインシデント事例のうち、31.4%が注射・点滴に関わるものであるという結果が出されました。直接体内に薬物が入る注射・点滴は患者の身体に影響が出るまでの時間が短く大きな障害や死亡につながる可能性があり、薬剤への認識や知識が必要性とされます。このことから、「注射に関する基礎知識を再習得する」ことを目標とし、6月15日に看護技術研修が行われました。

研修の内容として、看護教育委員会の担当看護師長より、日本看護協会から出された「静脈注射の実施に関する指針」の中から、看護師による静脈注射の実施範囲や実施に必要な知識・技術、実施前の確認事項について講義がありました。また、医師から出された注射指示の正しい読み取り方、注射薬の様々な単位や1ml中の薬剤成分量について、実際に計算したり、テスト形式での演習を行いました。また、重大事故防止という観点からは、誤って実施された際に重篤な結果をもたらす薬剤を押しさえておくことの重要性について学習しました。

今年2月に日本看護協会が発表した04年度新卒採用者看護師約1000人へのアンケート結果では、薬への知識不足に不安を覚える看護師の実態が明らかになっています。このことを踏まえて、新卒採用者に対しての研修も行っていきたいと考えています。

(専任リスクマネージャー：高橋 富姉子)